

## 会議録

会議の名称	令和元年度 第38回茨木市こども育成支援会議
開催日時	令和2年1月27日(月) 午後6時00分～8時01分
開催場所	茨木市役所南館 8階中会議室
出席委員	今中委員、上木委員、植田委員、上道委員、大森委員、河田委員、柴田委員、 下田平委員、西川委員、西之辻委員、西松委員、福永委員、三角委員、宗清委員、 森委員、山戸委員 (五十音順)
欠席委員	加藤委員、舟木委員、前田委員、山根委員 (五十音順)
事務局	岡こども育成部長、東井こども政策課長、中井子育て支援課長、山寄保育幼稚園 総務課長、村上保育幼稚園事業課長、幸地学童保育課長、中坂こども政策課長代 理兼子ども・若者支援グループ長、白波瀬こども政策課給付支援係長、山鹿こど も政策課職員
案件	会議案件 (1) 茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)(案)について (2) 今後のスケジュールおよびパブリックコメントの実施について  ワーキング・ミーティング ①【テーマ】地域での支え合い(6人×2グループ) ○地域で多世代の支え合い(教育・福祉・地域連携など含む) ②【テーマ】茨木市版ネウボラに期待すること(6人×1グループ) ○利用者からみた切れ目ないサポート
配布資料	資料1 茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)(案) 資料1 補足資料 33～38 ページ 資料2-① こども育成支援会議スケジュール 資料2-② 意見等の提出方法 当日資料 子ども・子育てワークショップ実施要領

発 言 者	発 言 内 容
司 会（東井 こども政策 課長）	<p>ご案内の時間となりましたので、茨木市こども育成支援会議を開催いたします。</p> <p>本日は大変ご多用のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。会議の開催にあたりまして、こども育成部長の岡和人からごあいさつを申し上げます。</p>
岡こども育 成部長	<p>みなさん、こんばんは。今日は、これまでずっと議論いただいてきました第4期の次世代行動計画ですが、2月初めから市民意見、パブリックコメントの募集をすることになりますので、その最終の確認をお願いしたいということと、それから今テーブルがこのような配置になっておりますが、大きく2つのテーマに基づいて、3つのグループでグループ討議をお願いしたいと思っています。この計画は今年度末には正式な計画として策定いたしますが、実際にはこれから向こう5年間の子育て支援等の施策を進めるための指標と言いますか、ベースになるものになります。その取組を進めるにあたってのヒントのようなものを今日いただければ有難いと思っております。最後まで積極的なご参加よろしく願います。</p>
司 会（東井 こども政策 課長）	<p>次に、本日の委員の出欠状況について報告いたします。</p> <p>茨木市私立幼稚園保護者 前田委員 茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園 親の会 加藤委員 児童養護施設子供の家施設長 舟木委員 茨木公立保育所保護者会連絡会会長 山根委員 につきましては、所用のため欠席の連絡をいただいております。なお、柴田委員につきましては、遅参の連絡をいただいておりますので、この後ご参加いただけるものと思っております。山戸委員につきましても、欠席の連絡をいただいておりますので、この後ご出席いただけるものと考えております。本日20人のうち14人の方に出席をいただいております。また、株式会社サーベイリサーチセンターが会議録作成のため、この会議に同席しております。</p> <p>それでは、茨木市こども育成支援会議条例第6条第1項の規定により、会議の進行を福永会長よろしく願います。</p>
福永会長	<p>それでは、本日の会議は半数以上の委員に出席いただいておりますので、こども育成支援会議条例第6条第2項により成立しております。</p> <p>では、会議案件「(1)茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)(案)について」、修正箇所について事務局より説明をお願いします。</p>
中坂こども 政策課長代 理兼子ど も・若者支援 グループ長	<p>まず、資料1をご覧ください。第37回こども育成支援会議以降の修正箇所を朱書き見え消しで記載しております。前回の資料から差し替え分のみを印刷し、事前配布しております。</p> <p>なお、21・22ページおよび29・30ページは修正箇所はありませんが、間違っ て印刷してお配りしております。</p> <p>全体の修正の多くは簡易なものとなっておりますが、いくつかの修正箇所について説明いたします。</p>

	<p>60 ページをお開きください。このページは印刷機の調子が悪くカラー印刷でなく白黒印刷となっており、朱書きになっておりません。1235 番「子どもの読書活動の推進」の評価指標の※印文中「見込」と漢字のみになっておりましたが、ひらがなで「み」を追記しております。</p> <p>66 ページをお開きください。1318 番「スポーツ環境の整備」の評価指標の令和 6 年度の目標値が「1,050」となっておりましたが「1,560」に修正しております。</p> <p>67 ページをお開きください。1320 番「家庭教育支援」の評価指標の※印文中「目標」を「目標値」に修正し、2 行目を削除しております。</p> <p>95 ページをお開きください。「四角囲みは参考指標として追記掲載（第 4 期計画から新たな指標として設定）」を追記し、該当箇所を四角囲みしております。</p> <p>100 ページをお開きください。「⑤住宅に関する支援」の最終行、シェルターと記載しておりましたが、わかりにくいので「緊急一時保護施設」を追記しております。</p> <p>117 ページをお開きください。1 号認定の説明で「夫婦どちらかが働いていない家庭」としておりましたが、他の文言と同様に「夫婦の一方が家事に専念している家庭」に修正しております。</p> <p>142 ページをお開きください。「5 養育支援訪問事業」の基本情報、対象家庭類型に年齢を記載しておりましたが、「対象家庭類型：すべての家庭類型」「対象年齢：0 歳～18 歳未満」に修正しております。</p> <p>202 ページをお開きください。こども育成支援会議の開催状況ですが、本日の会議と次回の会議の案件を修正しております。</p> <p>205 ページから 217 ページまで新たに用語説明を挿入しております。最後に 219 ページをお開きください。「②子育て支援機能の法の位置づけ」の文中「茨木市市民会館跡地エリアに建設する」を「跡地エリア新施設に配置される」に修正しております。以上です。</p>
中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長	<p>本日、皆さまの机の上にクリップ留めで、ページ番号下が 33 から 38 ページまでの計画の内容を載せております。少し修正漏れがございました。34 ページを見ていただきまして「また、」という記載を削除し、35 ページに朱書きで「また、受入枠の拡充に伴い必要となる保育士や幼稚園教諭など教育・保育の担い手の確保が求められます。」という一文を追記しております。そこでページ数がずれていきますので、38 ページまでお配りしております。そちらのほうも前回資料から差し替えをよろしく願いいたします。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。ただいまいただきました説明にご意見・ご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。特にございませんか。</p> <p>それでは、会議案件（2）に移らせていただきたいと思います。会議案件「（2）今後のスケジュールおよびパブリックコメントの実施について」を事務局から説明をお願いします。</p>
中坂こども	<p>まず資料 2-①をご覧ください。本日の会議で確定いたしました「茨木市次</p>

<p>政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長</p>	<p>世代育成支援行動計画（第4期）案」につきまして、2月1日土曜日から21日金曜日まで市民の方からご意見をいただくため、パブリックコメントを実施いたします。</p> <p>パブリックコメントの結果につきましては、3月23日月曜日開催予定のこども育成支援会議で報告させていただき、3月24日火曜日に結果の公表をする予定です。その後、3月25日水曜日にこども育成支援会議の福永会長から福岡市長へ第4期計画の答申をいただき、3月27日金曜日に市として第4期計画の内容について意思決定を行い、とりまとめてまいりたいと考えております。</p> <p>次に資料2-②をご覧ください。パブリックコメントの意見等の提出方法についてですが、公表場所は市ホームページ、こども政策課窓口、情報ルーム、各図書館、各いのち・愛・ゆめセンター、生涯学習センター、上中条青少年センター、ローズWAM、各ユースプラザです。</p> <p>提出方法・提出先は、郵送、FAX、Eメール、担当課への書面の提出、簡易電子申込システムです。説明は以上です。</p>
<p>福永会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの説明でご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>そうしましたら、今後のスケジュール、パブリックコメントにつきましては、今の説明の通りで進行をさせていただきたいと思います。</p> <p>次にワーキング・ミーティングに移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長</p>	<p>追加でご送付させていただいているかと思えます「子ども・子育てワークショップ実施要領」をご覧ください。</p> <p>本日開催するワークショップの実施目的ですが、事務局が意見・アイデアを求めたいテーマが2つございます。1つは「茨木版ネウボラに期待すること：利用者からみた切れ目ないサポート」ということで、Aグループの皆さんにお話しさせていただきたいと思っております。そして、もう1つのテーマが「地域の支え合い：地域で多世代の支え合いについて考える」で、これは、教育・福祉・地域連携を含んだものについてご意見をいただければと思っております。この2つのテーマについて参加者が自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的に実施いたします。従って、急いで問題を解決したり、結論を出したり、終わりに合意形成することが目的ではございません。ワークショップの目的ということで、四角で囲んであるところを見ていただきたいのですが、全員に自由に意見を言っていただく、いつもと違う雰囲気話し合いをしてもらう、多くの知恵や考えを集める、参加者の考えや認識を深める、参加者どうしの新たな気づきを得る、参加者相互の理解を進める、お互いの関係性の質を高めたいと考えまして、このワーキング・ミーティングを実施したいと考えております。</p> <p>約束事では、ここには書いていませんが、2つお伝えしたいと思います。1つは発言の時間ですが、限られた時間の中で皆さんに意見を言っていただくというところで、時間を独り占めしないということ。それからもう1つは、皆さ</p>

	<p>んから出た意見を否定しない。この2つのルールを守っていただきたいと思っております。</p> <p>机の上に置かせていただいている模造紙と付箋を使っていただき、マジックを使ってわかりやすく、文章は短くというようなところで、それぞれのテーブルに事務局も入っておりますので、わかりやすく配置をして、最後発表していただければと思っております。</p> <p>時間の流れとしましては、こちらのお配りしている要領を2つめくっていただきますと、AグループとB・Cグループのタイムスケジュールがございます。このオリエンテーションが終わった後、AグループとB・Cグループ少し動きが変わりますので、Aグループのネウボラのほうを話していただく方は、福永会長にも入っていただきまして回していただく形になります。グループ発表の発表者を選定した後、このような時間の流れで進めていきたいと思っております。B・Cグループのほうもこちらに書かれてあるような流れでと思っておりますが、予定より少し早く入れそうなので多少の時間延長も可能かと思っておりますが、だいたいこの時間どおりでいきたいと思っております。私ども事務局のほうでタイムキーパーをさせていただきたいと思っておりますので、ご自由に進めていただければと思います。ワークショップの説明については以上です。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。そうしましたら、これから19時55分くらいまでの間、今説明いただいたタイムスケジュールに従いまして、テーブルごとにワークショップを進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長	<p>本日傍聴いただいている方は、各テーブルを回って傍聴していただくことができますが、発言はできませんのでご了承ください。</p>
中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長	<p>それでは、各テーブル進行役の職員2人付いていますので、最初に資料の説明等をしていただき、皆さんのご意見を出していただければと思います。よろしく願いします。</p> <p><b>【ワーキング・ミーティング実施】</b></p>
中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長	<p><b>【ワーキング・ミーティング終了、グループ発表】</b></p> <p>それでは、各グループが話し合いの結果について、グループごとに発表して頂きます。Aグループからお願いします。</p>
Aグループ (発表者：河田委員)	<p>私達は、茨木版のネウボラに期待することということで話を進めました。今の問題点としてまず出てきたのが、妊娠して急に出産した直後から相談しようと言われても結構ハードルが高いので、それをどうするのかという話が出てきました。できれば妊娠中に関わった助産婦さんとかと継続的に話ができる</p>

	<p>と一番お話ししやすいのかなという話が出ていました。それと地域の中で妊婦さんとか新生児の方がいらしても、そういうのは今情報として地域には返されていないので、それをポピュレーションアプローチというちょっと難しい言葉が出てきたのですが、ハイリスクの方だけを捉えるのではなくて、全ての方をみていくというシステムを作っていくのであれば、やはり地域の中でどこに妊婦さんがいらっしゃるとか、どこに新生児を持ったお母さんがいらっしゃるとかいうことをちゃんと共有していく必要があるのではないか、という話が出ました。次に今後こうなっていけば良いなという話なのですが、このへんはちょっとシビアな問題で、0歳0か月の方の虐待死が一番多くなっているとか、それから養育費、貧困の問題とか、そういうのが乳児の死亡にかかわっているのではないかとということで、このへんももちろん解決していかないといけないことなのですが、これはなかなか私達だけの話では難しい。そういうことも含めて、地域でどこにどういう人がいるのかということを知っていく必要があるのかなという話になりました。</p> <p>ネウボラを作っていくのは良いのですが、今の一番シビアな話で出ていたのは、ネウボラというのが本場のものと茨木市とか国でやろうとしていることにちょっとギャップがあるので、このままで良いのかなという話が出ていました。できれば、一人の方がずっと関わり続けるようなシステムになっていくことが、安心して話をできる体制になっていくのではないかとということと、それからもう1つはお母さんのほうへのアプローチ、お母さんが気楽に喋っていけるようなイベントとかを、市の人だけで対応するのではなくて、あるいは保健師さんとかだけで対応されるのではなくて、私達の中からでもボランティア的な形で作っていきながら、近所で、例えばコミセンでそういう所があって、そこへなんとなく近所のおばちゃんが見に行き、別に相談に行くというふうでもなくて、一緒にお茶飲みましょうみたいな感じでやっていけたら良いのかなという話です。</p> <p>健診なんかもエリアごとで行われることによって、自然と妊婦さんどうしとか新生児さんを持ったお母さんどうしとかが繋がることのできるのではないかとということで、大きな茨木市という括りよりも、もう少し小さい地域でのイベントとかが行われたら良いのかなという話になっています。そんな感じでした。ありがとうございます。</p>
<p>中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長</p>	<p>ありがとうございました。では、Bグループお願いします。</p>
<p>Bグループ (発表者：三角委員)</p>	<p>Bグループです。Bグループは、地域の支え合いという大きな大きなテーマをいただきまして、地域の支え合いってまず何なんだろう、こんな大きなテーマでどうやって話し合っていくのというところから入って、つどいの広場というのが今茨木市の中では20か所で事業をされているのですが、その中の山手台</p>

のほうのななつ星さんがすごく充実したつどいの広場ができていて、というところで、また色々な地域からも来られるというつどいの広場事業をされている。そのつどいの広場のこんなことをやっているよ、あんなことをやっているよ、ということのお話を聞いて、「ははあん。」と皆さんの頭の中に、じゃあ地域で支え合うということをキーワードにして何か一言ずつ、付箋に書いてみようかということで、皆書きだしました。そんな中で、この地域の支え合いでまず今できていることは何だろう、こども食堂できているね、やっているね、まだまだ数は少ないですが。それから見守りということも地域の方々、民生委員さんもちろんそうですし、色々な方々の見守り、声かけというのも、ある程度できているのではないかな。またつどいの広場も20か所今あるのですが、目標を各小学校区にもっていきたいというところで、できていっているようなところなのかなというところで。それから、ぼちぼちそっちへできていくほうになっているかなというところが、子育てに不安を感じておられるけどどこへ行けば良いのかわからないであるとか、いわゆる情報発信ですね。情報をどこから取れば自ら見つけられるのかということもありながら、そのアピール方法をどうやってここの支え合うという入口をもってきてあげれば良いのか、というところですね。私みたいにこども園をやっている者に関しては、子どもを預けていただいている保護者の方に関しては色々な子育てのサポートとかできるのですが、それがないところは どうやってその情報を、どこに行けば良いのだろう、というところがなかなか見えないのではないかな。だからそれで、ネットというところも使ってはどうかということになりました。

それから、これはもう少し時間がかかるねというところは、例えばお節介であるとか、この頃地域の子供達に声をかけるのもNGに近いところがあったりするので、こっちが手を差し伸べますよ、出しても向こうが掴んでくれるのかどうなのか、その掴める方法というのはどうやって教えれば良いのか。それからまた、LINEなんかで情報発信、それから最後のほうに出てきたのですが、茨木市民が母子手帳を取りに来た時に、皆会員登録みたいな形で登録してもらって、つどいの広場に行ったりとか、色々な子育てサロンに行ったりとか、色々なイベントに行った時にポイントが付けれるとか、そういう形にすると、もっともっと今の若い世代のお母さん・お父さんは入りやすくなるのではないかと、すごくこれは大きな大きな先の先の話なのですが、キーワードはポイントみたいな感じでここに書いてあるのですが、そんな中からキャッチフレーズというところをBグループでも考えてみたのですが、「良いことあるよ、茨木の子育て（それはポイント）」「物も思いもたまる子育てポイント」、「色々発見あるよ、茨木の子育て（その答えはポイント）」。そういうような形で、とにかく若い親御さん達が本当に気軽にすつと行ける方法、すつと手が出せる方法というのがどんなものだろうか、何かないのかな、これというのはやっぱり皆今の若い世代が持つてるスマホという世界なのかな、というところもちょこっと頭に置きながら考えてまいりました。

中坂こども

ありがとうございました。では、Cグループお願いします。

<p>政策課長代 理兼子ども も・若者支援 グループ長</p>	
<p>Cグループ (発表者：森 委員)</p>	<p>Bグループと同じお題だったのですが、Cグループも地域の支え合い、地域で多世代の支え合いについて考えるという、本当に本当に大きなテーマでした。なんとなくグルーピングさせていただきました。まず地域の話をするると皆愚痴っぽくなるよね、なんて言いながら話していたのですが、その中でやっぱり大事にしたいこと、残したいなというのは、例えば中学校であったり小学校であったり、地域の自治会さんと一緒にやるイベントですね。そういうのをふるさと祭りにしろ、地域でのイベント、お祭りなんかはやっぱりずっとずっと残していきたいよねと。そこに私達はPTAなので中学生を巻き込んで、上の世代、あと下の世代の小学生と一緒に地域を盛り上げていくような中学生、若い人材を育成できたらというのがあってイベントを大事にしたい。大事にしたいがと、いうところで、実は餅つきでしたら餅つきの人手不足、マンパワーが圧倒的に足りない。地域の高齢化も世代交代が上手くいくのかということも問題がありますし、組織の強化も必要であるし、保護者どうしの関わり合い、毎日、例えば幼稚園にお迎えに行き会うのに声もかけない、友達がいない、さっきこのアンケートにママ友にやっぱり相談したいと言っているけど、それもできない。ちょっと親も変わってきた、人も変わってきたみたいな、希薄化というものも一つポイントとしてあがりました。保護者どうし人どうしの関わり合いが親は苦手。親が苦手だったら子どももなかなかみたいところもあると思っています。あと横の繋がりも強化しないと、年々、例えば公民館とのお付き合いとか、自治会と子ども会が実は仲が悪く、仲良く一緒に頑張れたら良いが色々齟齬が出てきてる。子ども会の立場で言わせていただくと、自治会から地区運動会やふるさと祭りを丸投げされる、そういう何か上手くいってないところがある。あとPTAもすごく岐路に立っていて、個人情報保護法で「任意団体」がクローズアップされ、学級委員がなくなっている小学校もあります。親と子どもと地域との繋がり、そこの中核を担っているPTAがぜい弱化している、弱くなっていると。その強化がやっぱり必要ではないかという意見がすごく出ました。あと茨木市は子育てのサービスいっぱいある、こども食堂とかファミリー・サポート・センター、子ども預かってもらえるよ、食堂も行けるよ、でも、というところでその先に一歩踏み出すのがなかなか敷居が高い。サービス自体は知っているけど、使い勝手が悪いとか誰が預かってくれるのかよくわからない。あと土曜日・日曜日に親がお仕事されている人が今すごく多いので、子どもの預ける場所。上のきょうだいの参観をしっかりと聞きたいけど、下の子のお世話していたら聞けない。病気の子ども、学級閉鎖でも子どもピンピンしているが、預け先がなくて仕事で困った。茨木市は学童が一応3年生までなので、4年生からどうする、春休み・夏休みとかの長期の休み、あと就業時間が少し足りないけど例えば水曜日だけ預かってほしいみたいな、そういうピンポ</p>

	<p>イントのサービスが弱い。あと色々な組織があるけど、例えば青健協は小学校区や中学校区とあるけど、まとまらないのみたいなことも出ていました。</p> <p>地域としては、やっぱり地震。去年ありました地震と台風。何かあった時、緊急の時に自主防災がある地域はそこが頑張っているけど、でもなかなか機能していないところもある。あと吹田の千里山の警察官の事件の時に、なかなか情報が手元に届かなかった。私立の幼稚園には情報が届かなくて、緊急時の情報の収集の仕方、共有の仕方、その課題が浮き彫りになったのではないかというのも出ました。今多様な育ちの子ども達がいっぱいいます。けれども茨木市は療育施設が、小さい子はすすくがあるのですが、その後あけぼの学園しかないの、療育施設が少ない。そういった育ちの多様な子ども達の対応も課題ではないのかという話が出ました。他にもいっぱい出たのですが、さくっとまとめるとこんなキーワードです。「茨木市は次なる茨木、つながる茨木」で地域の輪をつなげて、つながれば解決することいっぱいあるよねという話でした。以上です。</p>
<p>中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長</p>	<p>ありがとうございます。福永会長、一言コメントをいただければと思います。</p>
<p>福永会長</p>	<p>皆さんどうもありがとうございました。もう時間も過ぎていきますので、一言ですが、先ほど聞かせていただいて、どのグループも盛り上がって色々お話しをしてくれて色々なものを出していただいたかなと、それは非常に有難いしご協力いただいたかなということで嬉しく思います。3つのグループとも地域をどうしていくのかということだと思いますし、地域のコミュニケーションの場をどうやって作っていくのかということ、そこから色々なものがまた広がっていくんだらうなと思ったら、やっぱり気楽に喋れて繋がれて次に繋がっていく、本当にこれが共通するテーマでそれが本質かなと思いました。ですから、今出てきた色々なアイデアをこれから市政・施策のほうに生かされていければ良いなと思います。どうもありがとうございました。</p>
<p>中坂こども政策課長代理兼子ども・若者支援グループ長</p>	<p>それでは、次回のこども育成支援会議と今後のスケジュールについて事務局から説明いたします。</p> <p>次回の会議は3月23日月曜日午後6時～8時、場所は本日と同様の南館8階中会議室になります。審議案件につきましては、パブリックコメントの結果報告について、利用定員の確認について、報告事項といたしまして市の学力向上の取組について、それから子ども読書活動推進計画についてを予定しております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>福永会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、これをもちまして第38回こども育成支援会議を終了とします。長時間にわたりご協力をいただきましてありがとうございました。次回もよろしく願いいたします。</p>

